

令和3年度 事業報告

◎ 令和3年度事業の概要

当会は、住み慣れた地域でその人らしく暮らすことができるよう、岩見沢市社会福祉協議会地域福祉活動計画に基づき事業を進めております。

令和3年度においても、これまで取組んでまいりました住民参加・協働による地域に根差したボランティア育成事業や市民が身近な地域における福祉について関心を持ってもらい、市民主体による福祉コミュニティづくりを推し進める予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、残念ながら令和2年度同様に思うような事業が実施できない状況が続きました。

介護事業においては、目立った利用控えはないものの、コロナ禍にあって新規利用者が伸び悩む状況になりましたが、利用者が安心して生活することができるよう、感染防止に努めながらサービス提供を維持してまいりました。

また、障がい児通所支援事業においては、新型コロナウイルス感染症の発生が幼稚園や保育所で増加した影響から休園児が増え、つみき園の利用者が減少しました。

経営面においては、令和2年度に策定した経営改善計画に沿って経営の健全化を目指しました。

以下、令和3年度事業計画に沿った推進項目について報告します。

「重点事項」

● 地域ふれあいサロンの充実

地域ふれあいサロン活動団体に対し、立ち上げ支援として助成金の交付を行った。

また、新規事業として、ふれあいサロンの普及を図ることを目的に、出張ふれあいサロンを開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。

● 運営基盤の強化と財源確保

安定的な自主財源を確保するため、会員の募集を積極的に行った。

また、職員が業務に必要な専門知識と幅広い視野を持ち、主体的に実践する人材を育成するため各種研修会や講習会に参加予定であったが、令和2年度同様に新型コロナウイルス感染症のため中止が相次ぐ中、オンライン研修には積極的に参加した。

● 福祉サービス事業の推進及び経営の健全化

介護事業等の福祉サービスについては、計画に沿って経営改善に努めたが前年度と比較して利用者の増加となった事業もあったものの、新型コロナウイルス感染症などの影響もあり全体としては計画値に届かず大変厳しい経営状況が続いている。

特に通所介護事業においては、広報活動の強化、サービス内容の多様化、水曜日営業の再開等により利用者増となる一方、施設入所等も多くあり利用者の大幅な増加とはならなかった。

1 地域福祉の推進

昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により、多くの事業や講座の中止を余儀なくされたが、人と人とのつながりを絶やさないよう、地域福祉活動の支援を行うとともに、感染予防対策を行いながら、ボランティアの養成、除雪ボランティアの派遣、権利擁護支援、さらに、オンライン（ZOOM）を活用した福祉体験学習の実施など、コロナ禍で出来ることを模索しながら事業の実施に努めた。

また、生活福祉資金特例貸付の延長に伴い、新型コロナウイルスの影響により収入が減少した世帯に対し、必要な資金の貸付や相談援助などの支援を行い、住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりの推進に努めた。

（１）地域住民の声を反映できる課題把握と情報共有

①地域福祉懇談会の開催

当会が実施する地域福祉活動の理解促進と地域住民が抱える生活課題等の把握を目的に地域福祉懇談会の開催準備を進めていたが、新型コロナウイルスの影響により次年度に延期した。

②実施事業からのニーズ調査

各実施事業・講座ごとにアンケート調査を行い、ニーズに沿った事業展開や講座内容の充実を図るため、検討を行った。

□アンケート実施回数「傾聴ボランティア講座」他 5 回

（２）相談支援体制の充実

①各関係機関等との連携強化

様々な相談に対応するため、各相談機関の会議等に参加し、連携強化に努めた。

□出席回数 13 回「生活サポートセンターりんく支援調整会議」他

②民生委員・児童委員との連携

民生委員・児童委員協議会役員会及び定例会に参加し、各種事業の説明等を行うとともに、市民から寄せられる困りごとについて情報共有を図るなど、民生委員・児童委員との連携を深め、地域における相談支援促進に努めた。

③部署間横断の相談支援の充実

市民の日常生活上の様々な困りごとの相談に応じるため、社協内の他部門と情報共有・連携を図り、解決に向けた適切な助言・支援に努めた。

（３）地域住民と共に進める支え合い活動や交流活動の促進

①小地域福祉ネットワーク活動事業

小地域（ふれあい推進協議会・地区協議会・町会等）を基盤として展開する地域住民による見守り、安否確認活動や身の世話等の日常生活支援活動に対して助成を行い、地域における支え合い活動の活性化に努めた。

□助成金 2,903,890 円

②町会等除雪ボランティア活動支援事業（岩見沢市からの受託事業）

自力で除雪が困難な独居高齢者世帯や身体障がい者世帯等の要援護者世帯に対し、地域のボランティアによる玄関前等の除排雪活動に助成支援を行い、地域住民同士の支えあい活動の充実を図り、冬期間における要援護者世帯の日常生活の安全確保に努めた。

□対象世帯 1,209 世帯 助成金 6,771,740 円

③除雪ボランティア派遣事業

自力で除雪が困難、かつ家族や親類等からの協力が得られない高齢者世帯や身体障がい者世帯などの要援護者世帯に対して、除雪ボランティアを派遣し、間口の拡幅や暖房器具の給排気筒等付近の除雪支援を行った。

□登録者 個人 4 人・7 団体

□支援世帯数 延べ 23 世帯

④地域ふれあいサロン事業【重点】

高齢者や障がい者及び子育て中の親子など、外出の機会が少ない方々の閉じこもり予防と安否確認や生活課題の把握等を目的に、世代を超えた誰もが参加できる地域交流活動の立上支援を行うとともに、他機関の活動助成金等の情報提供等を行い、事業の活性化に努めた。

□登録サロン数及び助成金額

区 分	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
登録サロン数	29 団体	33 団体	28 団体	25 団体	22 団体
助 成 金 額	682,000 円	782,000 円	424,000 円	78,000 円	12,000 円

(ア)出張ふれあいサロンの開催【新規・中止】

新規ふれあいサロンの普及を図ることを目的に、ふれあいサロン未設置地区での出張体験サロンを行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響により中止した。

(イ)地域ふれあいサロン活動者研修交流会【中止】

サロン活動の充実と活動者同士のネットワークの構築を目的とし、開催に向けて準備を進めていたが、新型コロナウイルスの影響により中止した。

⑤レクリエーション用具貸出事業

地域交流の促進と活性化を図ることを目的に、町会・自治会、ボランティア団体及びふれあいサロン等に対し、レクリエーション用具を無料で貸出すこととしていたが、新型コロナウイルスの影響により貸出実績がなかった。

□貸出件数 0 件

⑥福祉団体等の活動支援

障がい者等の福祉団体へ活動費助成を行い、団体の使命や特徴を活かした活動の活性化に努めた。

□福祉団体助成 8 団体 240,000 円

⑦やさしい在宅介護講習会

在宅介護に係る講話や一般的な介護方法等について演習等を行い、家庭や地域で孤立することなく豊かな生活を送るための一助として、介護知識・技術の向上及び在宅で介護に取り組む方々の日常の悩みや負担の軽減に努めた。

□12月14日・15日 参加者8人

⑧高齢者趣味と教養・健康増進支援事業

岩見沢市老人クラブ連合会主催の各種事業に対し助成を行い、高齢者が個々の技能や趣味を活かした社会参加活動を通じ、仲間づくりや生きがいの場づくりが図れた。

□10月2日 高齢者ウォーキング大会 助成金80,000円 参加者81人

□11月12日 囲碁将棋大会 助成金20,000円 参加者28人

□岩見沢市高齢者文化祭【中止】

⑨金婚祝賀会開催事業

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、祝賀会を中止し、金婚該当者に対して、お祝いメッセージと記念品を郵送して祝福した。

□該当者 267組（534人）

□お祝いメッセージ（市長・実行委員長名）

□記念品 ひとことマグカップ（定価1,760円）

（４）地域福祉への理解促進

①地域福祉活動推進セミナーの開催【中止】

町会関係者を対象に、新型コロナウイルスの影響により、自粛や中止していた地域福祉活動の再開に向けてのセミナーの開催準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。

②地域福祉出前講座

町会・自治会をはじめとする福祉団体等からの要望に沿って、当会職員等が講師となり「地域福祉出前講座」を実施し、地域住民の福祉に対する理解や関心を深めた。

□出前件数 5件

□内 容 「社会福祉協議会について」他

③社会福祉功労者表彰の実施及び推薦

地域福祉活動及びボランティア活動に永年にわたり功労のあった個人・団体や当会に多額の寄付をされた方、市内の福祉団体・施設において永年にわたり勤務された方に対して、その功績を讃え、表彰式を執り行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため理事会で表彰式の中止を決定し、被表彰者には表彰状をお届けすることに対応した。

また、活動を通じて社会福祉に貢献された市内各社会福祉関係者及び団体を岩見沢市の福祉活動功労者表彰をはじめ、北海道社会福祉協議会会長表彰などへ推薦を行った。

(7) 岩見沢市社会福祉協議会 社会福祉功労者表彰

(敬称略)

功績表彰	中 川 美知子	市 原 広 子	中 野 美喜子
	山 口 あけみ	鈴 木 正 子	川 東 岩 男
	大 松 勝 彦		
善行感謝	酒 井 勉	中 田 高 廣	谷 村 八重子
	坂 下 勇	長谷川 光 男	山 口 裕 一
	鎌 倉 忠 男	樋 爪 英 捷	桐 越 勇 治
	内 村 久 子	小 松 徹	五十嵐 隆
	山 口 智 裕	合同会社アルファ工業	玉峰書道教室
ボランティア功労賞	山 口 逸 子	塚 本 淑 子	
永年勤続表彰	柳 谷 希 乃	福 岡 みゆき	熊 木 真 純
	逢 坂 亜友美	綾 川 佑 平	浅 野 こずえ
	若 松 和 子	佐々木 亮 輔	橋 本 可 奈
	米 澤 英 生	前 川 俊 介	川 口 真奈美
	山 口 貴 光	荒 木 孝	
功労表彰	吉 田 栄 次	清 水 ヨシ子	生 出 八重子
	日 向 貢		
特別表彰	内 海 泰 子		

功績表彰 (7 人)・善行感謝 (13 人・2 団体)・ボランティア功労賞 (2 人)・永年勤続表彰 (14 人)・功労表彰 (4 人)・特別表彰 (1 人)

☐表彰式中止

(イ) 厚生労働大臣表彰

若松地域給食ボランティア (ボランティア功労者)

☐表彰式中止

(ウ) 全国社会福祉協議会会長表彰

大西 拓也・横田 明 (社協・民間社会福祉団体功労)

☐表彰式中止

(エ) 北海道社会貢献賞

手話サークル「エプロン」 (地域活動推進功労者)

☐表彰式中止

(オ) 北海道社会福祉協議会会長表彰

紅露 康太 (社会福祉協議会職員功労者)

☐表彰式中止

(カ) 北海道共同募金会会長表彰

岩見沢市子ども読書会 (共同募金運動優秀団体)

☐表彰式中止

(キ) 岩見沢市福祉活動功労

矢野 美恵・藤井 良子・小関 教子

☐10 月 26 日 岩見沢広域総合福祉センター

(5) ボランティアセンターの機能充実

①ボランティアセンター運営事業

市民から寄せられるボランティアに係る相談支援やボランティア派遣のコーディネートを行うとともに、ボランティア活動に関する市民の関心と理解を深めるため、情報誌やホームページ等を活用した情報発信を行いボランティア活動の促進に努めた。

また、ボランティアセンター運営委員会及び運営部会を開催し、各関係機関等との協力関係を深め、ボランティアセンター運営の充実に努めた。

☐ 運営委員会の開催（2回 書面決議）

☐ 運営部会の開催（随時）

☐ 定例会の開催（月1回）

(f) ボランティア登録団体・個人数

区 分	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
登録団体数	27 団体	27 団体	29 団体	26 団体	26 団体
登録個人数	14 人	16 人	17 人	11 人	9 人

(g) ボランティア相談・連絡調整件数

区 分	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
相談件数	19 件	43 件	33 件	10 件	2 件
連絡調整件数	15 件	36 件	31 件	2 件	2 件

(h) ボランティア派遣支援

車いす介助や傾聴等のボランティア派遣を行い、高齢者や障がい者などその家族の日常の負担軽減を図った。

☐ 派遣人数 69 人

②広報紙「おもいあい」の発行

ボランティア活動に関する市民の関心と理解を深めるため、ボランティアセンター広報部会によるボランティアセンター広報紙「おもいあい」を市内の公共機関等に設置し、ボランティア情報及び活動の周知啓発に努めた。

☐ 発行 2 回発行（7 月号・11 月号）※中止：3 月号

☐ 発行部数 各 1,500 部

③各種研修事業への参加促進

各会議等に参加し、ボランティアに係る先進的事例等の情報収集や研究討議、交流を通じて、ボランティア活動の資質向上に努めた。

開催日	研修会等名	参加者数
11 月 13 日	ボランティア愛ランド北海道 2021in えべつ	中止
11 月 19 日	令和 3 年度空知地区ボランティア活動推進会議	1 人
11 月 19 日	令和 3 年度空知地区ボランティア活動推進セミナー	2 人
12 月 20 日	令和 3 年度ボランティア強化セミナー（オンライン）	1 人

(6) 地域を支えるボランティアの育成

①各種ボランティア養成講座の開催

開催時期の変更や定員数を減らすなどの新型コロナウイルス感染予防対策を行いながら、新たなボランティア人材の発掘と育成に努めた。

(ア)傾聴ボランティア講座

傾聴についての知識と技術や心構えなどを学び、傾聴に対する理解促進と地域や施設において活動する傾聴ボランティアの養成を行った。

□10月13日・27日・11月10日（全3回） 受講者 15人

(イ)精神保健ボランティア講座

精神障がいへの理解を深め、精神障がい者が豊かな地域生活を送ることができるように、その橋渡し役としての精神保健ボランティアの養成を行った。

□10月14日・21日・28日（全3回） 受講者 5人

(ウ)はじめてのボランティア講座【中止】

(エ)点訳ボランティア講座【中止】

(オ)手話奉仕員養成講座【中止】

※(ウ)～(オ)については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。

②ボランティア活動者研修会・交流会の開催【中止】

一般部会において開催の可否について協議した結果、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。

③ボランティアの活動支援事業

登録ボランティア団体・個人及び除雪ボランティア活動者が安心して活動するために、ボランティア活動保険料の助成やボランティアに関する情報提供を行い、活動の促進に努めた。

□ボランティア団体助成 17団体 170,000円

□ボランティア活動保険 個人42人（一般8人・除雪34人）
25団体（496人）

(7) 将来を見据えた福祉教育の推進

①学童・生徒のボランティア活動普及事業

小・中・高等学校の学童・生徒の社会福祉への関心と理解を高め、実践活動によりボランティアの心と社会連携の精神を養うことを目的に、各学校に対し福祉教育のボランティア活動実践活動費の助成支援を行った。

□小・中・高等学校24校 助成金480,000円

②児童・生徒のボランティア体験研修会【中止】

児童・生徒部会において開催の可否について協議した結果、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。

③指定地域福祉教育セミナー【中止】

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。

④地域福祉教育推進事業

学校からの福祉体験学習の要請に応じ、障がい当事者及びボランティアを講師派遣するとともに、新型コロナウイルス感染予防対策として、オンライン（ZOOM）による、福祉体験学習を一部実施し、ノーマライゼーションの理念普及に努めた。

□派遣人数 16人

【福祉体験学習実施状況】

	実施日	学校名	学年・人数	学習内容
1	10月28日	日の出小学校	2年生51人	聴覚障がい者の講話、手話体験
2	11月10日	西高等学校	3年生10人	聴覚障がい者の講話、手話体験
3	11月 4日	日の出小学校	4年生49人	車いすについて講話、車いす体験
4	11月15日	日の出小学校	6年生52人	視覚障がい者の講話、点訳体験
5	11月18日	月形小学校	3年生17人	聴覚障がい者の講話、手話体験
6	11月22日	第一小学校	5年生65人	車いすについて講話、車いす体験
7	11月25日	緑中学校	全学年247人	聴覚障がい者の講話、手話体験
8	11月26日	北真小学校	6年生23人	高齢者に関する講話、高齢者疑似体験
9	12月 3日	日の出小学校	6年生54人	視覚障がい者の講話、ガイド体験
10	12月 9日	東小学校	6年生48人	車いすについて講話、車いす体験
11	12月14日	第一小学校	4年生74人	視覚障がい者の講話、ガイド体験
12	12月17日	日の出小学校	1年生54人	聴覚障がい者、視力障がい者講話、交流
13	2月25日	中央小学校	3年生60人	聴覚障がい者の講話、手話体験 (オンライン対応)
14	3月18日	北村中学校	1年生15人	聴覚障がい者の講話、手話体験 (オンライン対応)
合計		14校	819人	

【新型コロナウイルス感染防止の観点から中止】

	実施予定日	学校名	学年・人数	学習内容
1	1月31日	第二小学校	3年生19名	視覚障がい者の講話、ガイド体験
2	2月10日	第二小学校	4年生21名	車いすについて講話、車いす体験
3	2月中旬	第二小学校	5・6年生41名	高齢者に関する講話、高齢者疑似体験
合計		3校	81人	

(8) 地域における権利擁護の推進

①日常生活自立支援事業（北海道社会福祉協議会受託事業）

認知症や知的・精神障がい等により、判断能力に不安のある方に対して、福祉サービスの利用援助や日常的金銭管理を行い、要支援者が自立した地域生活を送ることができるよう支援するとともに、生活支援員の積極的な確保に努めた。

(ア)利用契約者等件数

区 分	認 知 症 高 齢 者	知 的 障がい者	精 神 障がい者	そ の 他	合 計
相 談 件 数	1,006 件	127 件	559 件	6 件	1,698 件
新規利用契約件数	7 件	2 件	1 件	0 件	10 件
解 約 件 数	3 件	0 件	1 件	0 件	4 件
利 用 契 約 件 数	11 件	5 件	7 件	0 件	23 件
生活支援員登録者数	27 人(新規登録 4 人 登録辞退 10 人)				
生活支援員活動者数	16 人				
社 協 預 か り	通帳 16 冊・印鑑 1 本				

(イ)生活支援員研修交流会【中止】

新型コロナウイルスの影響により中止した。

(ウ)日常生活自立支援事業指揮監督者・自立生活支援専門員・生活支援員研修（DVD 視聴）の開催

新型コロナウイルスの影響により、各自の自習にて実施

自習期間	内 容	受講者
令和 4 年 2 月 21 日～ 3 月 11 日	北海道社会福祉協議会が作成したテキストをもとに学習し、参加者の任意で自習レポートを提出。	提出提出者 29 人 (内訳) 指揮監督者 1 人 専門員 3 人 生活支援員 25 人

②成年後見支援センター事業（岩見沢市受託事業）

権利擁護全般に関する相談支援や成年後見制度の申立手続支援を行うとともに、法人後見事業を実施し、市民後見人（法人後見支援員）とともに、成年被後見人等の適切な身上保護及び財産管理に努めた。

地域における成年後見制度の理解促進、ニーズ発掘のため、講演会や出前講座等の普及啓発に積極的に取り組むとともに、今後、増大する成年後見制度のニーズに対応するため、市民後見人の養成に積極的取り組み、担い手の確保に努めた。

(ア)相談・申立手続支援実績

・相談件数

相 談 状 況	新規相談	121 件	計 1,476 件
	継続相談	1,355 件	

・ 申立手続支援

今年度中に申立に至った件数 (実件数)	本人申立 (うち、弁護士等書類作成代行申立)	15 件 (15 件)	計 26 件
	親族申立 (うち、弁護士等書類作成代行申立)	5 件 (3 件)	
	市長申立	6 件	

(イ) 成年後見支援センター運営協議会・事例検討会

開催日	会議名
令和 3 年 7 月 8 日	第 1 回成年後見支援センター運営協議会
令和 3 年 7 月 8 日	第 1 回成年後見支援センター事例検討会
令和 3 年 9 月 10 日 (書面決議)	第 2 回成年後見支援センター事例検討会
令和 3 年 12 月 2 日	第 3 回成年後見支援センター事例検討会
令和 4 年 3 月 10 日 (書面決議)	第 4 回成年後見支援センター事例検討会

(ウ) 市民後見人の養成と活動支援

・ 市民後見人養成講座

開催日	講座名	受講者数	修了者数
令和 3 年 9 月 21 日～10 月 12 日 毎週火曜日 全 4 日間	市民後見人養成講座 (基礎編)	7 人	6 人
令和 3 年 11 月 2 日～12 月 7 日 毎週火曜日 全 5 日間	市民後見人養成講座 (フォローアップ編)	4 人	4 人

・ 法人後見受任状況

新規受任件数	9 件
受任終了件数	3 件
継続受任件数	18 件
累計受任件数	25 件

・ 法人後見支援員の登録と活動状況

法人後見支援員新規登録者数 ※本年度市民後見人養成講座受講者の登録選考は、 新型コロナウイルスの影響により翌年度に持ち越し。	7 名
法人後見支援員登録抹消者数	3 名
法人後見支援員全登録者数	39 名
法人後見支援員活動者数 (年度末時点)	23 名
法人後見支援員活動回数 (延べ)	195 回
法人後見支援員活動人数 (延べ)	229 人
職員活動件数 (延べ)	898 件

・法人後見支援員スキルアップ研修会

自習期間	内 容	受講者
令和 4 年 3 月 4 日 ～3 月 31 日	DVD 自習「岩見沢市の法人後見支援員活動の概況について」 「現役法人後見支援員による実践報告」 ※当初東京大学専門講師を招き令和 4 年 1 月 25 日に研修会を実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、上記のとおり内容変更し実施。	39 名

・法人後見支援員自主活動グループの設立

法人後見支援員登録者の継続的な資質向上、活動意欲の維持・向上、登録者間の交流・情報交換の機会を設け、よりよい活動の推進に寄与することを目的に、法人後見支援員の自主活動グループ「岩見沢市民後見人の会」の設立に向けて設立総会を開催する予定であったが、昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により、進展を図ることができなかった。

(エ) 普及啓発

・成年後見制度講演会

開 催 日 時	令和 4 年 3 月 27 日（日）14 時 00 分～15 時 40 分
開 催 場 所	岩見沢広域総合福祉センター 研修室 1・2・3
内 容	講演「弁護士に聞く成年後見制度～知っておきたい身近な話」 講師 向井・中島法律事務所 弁護士 中島 圭太郎 氏
参 加 者 数	46 人

・出前講座講師対応（依頼テーマ：成年後見制度について等）

実 施 日	団 体 名	参加者数
令和 3 年 5 月 13 日	岩見沢市民生委員児童委員協議会第 12 方面	27 人
令和 3 年 10 月 11 日	岩見沢市民生委員児童委員協議会第 4 方面	21 人
令和 3 年 10 月 19 日	岩見沢市民生委員児童委員協議会第 8 方面	23 人
		計 71 人

・その他周知啓発活動

周知内容	周知媒体
成年後見制度に関する Q&A 記事掲載	いわみざわ社協だより第 141 号 (令和 3 年 7 月号)
市民後見人養成講座記事掲載	広報いわみざわ (令和 3 年 9 月号)
成年後見支援センターの取組に関する記事掲載	いわみざわ社協だより第 142 号 (令和 3 年 12 月号)

成年後見制度講演会記事掲載	広報いわみざわ (令和4年3月号)
成年後見制度講演会記事掲載	いわみざわ社協だより第143号 (令和4年3月号)
成年後見支援センター主催事業の記事掲載	本会ホームページ

(9) 生活困窮者等への支援

①生活福祉資金貸付事業（北海道社会福祉協議会委託事業）

他の貸付を受けることができない低所得者や高齢者、障がい者の世帯に対し、民生委員・児童委員等と連携し、必要な資金の貸付と相談支援を行うとともに、岩見沢市生活サポートセンターりんく等の関係機関と連携し、生活困窮者世帯の経済的自立や生活意欲の助長促進を図った。

また、特例貸付の延長に伴い、新型コロナウイルスの影響により、休業等により収入の減少があり、日常生活の維持が困難となった世帯に対し、緊急小口資金及び総合支援資金の特例貸付を行った。

□貸付件数及び貸付金額

資金名	資金種類	件数	貸付金額
福祉資金	教育支援資金	2 件	2,487,000 円
福祉資金	緊急小口資金	4 件	380,000 円
合 計		6 件	2,867,000 円

□特例貸付件数及び貸付金額（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

資金種類	件数	貸付金額
緊急小口資金【特例貸付】	196 件	36,550,000 円
総合支援資金【特例貸付】	366 件	195,276,000 円
合 計	562 件	231,826,000 円

②愛情銀行緊急生活費交付事業

やむを得ない事情により、緊急に生活費が不足した世帯に対し、緊急生活費の貸付支援を行った。

□7 件 50,472 円

③法外援護事業

市福祉事務所に対し、生活保護申請から決定までの生活つなぎ資金及び金銭不所持者等の送還旅費の助成を行い、市福祉事務所を通じて貸付及び交付を行った。

□市福祉事務所 助成金 20,000 円

□生活つなぎ資金 4 3 件 393,000 円

□送還旅費 6 件 5,440 円

(10) 災害ボランティアセンターの組織整備

①災害ボランティアセンター体制の整備

災害ボランティアセンターを迅速かつ円滑に立ち上げるために、設置運営マニュアルに基づき、訓練を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。

なお、北海道社会福祉協議会が主催する、災害ボランティアセンターに係る研修会に担当職員が参加し、災害時における被災者ニーズや支援、必要な情報発信などについて、理解を深め、職員の資質向上に努めた。

②災害ボランティアセンター研修会の開催【中止】

住民への防災・減災意識を啓発し、災害時のボランティア活動者や災害ボランティアセンターの運営支援スタッフを養成することを目的に開催準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。

(11) 共同募金運動への協力

共同募金運動における、新型コロナウイルス感染予防に係るガイドラインを作成、配布し、感染予防対策を行いながら各種募金活動を実施するとともに、百餅祭りと赤い羽根をコラボした岩見沢市限定の寄付金付ピンバッジを制作し、企業や関係団体等に協力及び共同募金への理解促進を図り、地域福祉活動の財源である共同募金運動の推進に努めた。

□実績額

区 分	令和3年度	令和2年度	増 減
赤い羽根共同募金	7,363,160 円	7,574,000 円	△210,840 円
歳末たすけあい運動	6,731,400 円	6,614,000 円	117,400 円

2 運営基盤の強化と財源確保【重点】

会費や寄付金、共同募金の配分金が減少傾向をたどっており、収支のバランスが悪化していることから、更なる業務の効率化やコスト削減を行うとともに、安定的な自主財源の確保のため、岩見沢市商工会議所やいわみざわ商工会加盟の各企業等に企業会員・特別会員の納入を依頼し新規会員の確保に努めた。

(1) 社会福祉協議会を取りまく動向等の調査、検討

①福祉情勢の把握

北海道社会福祉協議会や北海道社協職員連絡協議会等が主催する講習会や研修会は、新型コロナウイルスの影響により中止やオンライン研修へと変更になったが積極的に参加した。

②地域課題の把握と他社会福祉協議会との連携

空知管内社会福祉協議会連絡協議会をはじめとした他社会福祉協議会と連携し情報交換した。

(2) 人材の育成

①職階別に応じた研修の実施

役員の外部研修参加を進めるとともに、職員の管理指導体制を構築するため経験年数や能力等に応じた役割を担うよう、管理職のマネージメント能力を強化する階層別の管理者向け研修会等の参加を計画していたが、新型コロナウイルス感染症のため研修会の中止が相次いだ中、オンライン研修に積極的に参加し資質向上に努めた。

②各種研修会・講習会等への参加

新型コロナウイルスの影響により各種研修会・講習会が中止となる中、オンライン研修に積極的に参加した。

③職場研修の実施

- ・社協連絡会
- ・メンタルヘルス研修会
- ・ホームヘルパー内部研修
- ・ケアマネージャー内部研修

(3) 財源確保への取組

①社協会員加入の促進

社会福祉協議会の活動に対する理解者を増やすとともに、自主財源を確保するため、会員の募集を積極的に行い、岩見沢市商工会議所やいわみざわ商工会加盟の各企業等に依頼し新規会員の確保に努めた。

②共同募金活動の効果的な展開

岩見沢市共同募金委員会と連携・協働を図り、「共同募金における新型コロナウイルス感染予防に係るガイドライン」を示しながら、街頭募金を始め、各種募金活動を行うとともに、岩見沢商工会議所及びいわみざわ商工会加盟の各企業等に対し、寄付金付きピンバッジ頒布や募金箱・赤い羽根自動販売機の設置や法人募金の協力依頼を行い、新規の募金協力先の開拓に努めた。

また、市内イベントが中止となったことから、各団体・機関等の会合に出席し、共同募金の理解と協力を呼びかけ、共同募金運動の推進に努めた。

内 容		金 額
香典返し寄付金	48 件	1,360,000 円
一般寄付金	24 件	232,092 円
一般会員（1 世帯年額 100 円 234 町会 26,478 世帯）		2,647,800 円
特別会員（1 口年額 5,000 円 53 団体 82 口）		410,000 円
賛助会員（1 口年額 1,000 円 297 人 455 口）		455,000 円
企業会員（1 口年額 10,000 円 45 社 47 口）		470,000 円
共同募金	赤い羽根共同募金	7,363,160 円
	歳末たすけあい	6,731,400 円

3 社会福祉協議会の活動への理解促進

広報活動の強化・充実を図るため、社協だよりの発行等の事業を行った。

(1) 広報活動の充実

①「社協だより」の発行

地域福祉活動の取組について、広く市民から理解を得るため特集記事を掲載するなど、紙面の工夫や内容の充実を図るとともに、全世帯に配付することで当会事業の具体的な内容と福祉情報を広く周知した。

□発行回数 年3回(7・12・3月)

□発行部数 各回34,500部

②ホームページを活用した情報発信

社会福祉協議会事業計画や事業報告、予算、決算等関係書類、附属明細表等について情報発信するとともに、各種事業の取組や講座開催などの情報をいち早く提供した。

(2) 創立70周年記念誌の発行

70年の歩みを記録した記念誌を500部作成し、社会福祉協議会の活動を理解していただくため各町会及び社協会員並びに空知管内社協、各関係機関、団体等へ配布した。

4 日常生活用具の助成・物品貸出事業

(1) 日常生活用具の助成

日常生活を営む上で、生活用具が必要と認められた方に助成を行った。

また、市民の温かい善意と思いやりによる金品の寄付及び預託を受け、真に必要なとする方々への提供を行った。

□杖助成 13人

□アイスピック助成 9人

(2) 物品貸出事業

一時的に車椅子が必要になった方や、福祉教育等に車椅子の貸出を行うとともに、イベント等に行事用テントやレクリエーション用具の貸出を行った。

□車椅子貸出状況

区 分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
件 数	112件	94件	88件	53件	56件
台 数	180台	185台	215台	65台	112台

5 施設の適正な管理運営

岩見沢広域総合福祉センターについては、地域福祉活動の拠点施設として活用されるよう、福祉・ボランティア団体等の利用者の利便性向上に努めたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、独自の判断で施設を休館するなど対策に努めた。

また、岩見沢市から指定管理者として管理運営を実施している「岩見沢市高齢者福祉センター」、「岩見沢市栗沢福祉センター」、「栗沢デイサービスセンター」については、公共施設としての設置目的を踏まえながら、利用者にとって親しみやすい施設となるよう、適正な管理運営に努めた。

全ての施設において、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、利用者の検温・手指消毒の徹底・名簿の提出等の対策を講じた中で管理運営を行った。

(1) 岩見沢広域総合福祉センター

①開館時間及び休館日

(ア) 開館時間 午前9時～午後9時

(イ) 開館日数 245日

新型コロナウイルスの影響で休館

令和3年5月17日～6月20日まで

令和4年1月27日～3月21日まで

(ウ) 休館日 毎月第2、第4日曜日及び12月29日～翌年1月3日

②消防避難訓練等の実施【中止】

新型コロナウイルス感染症拡大のため未実施

③施設の改修・修繕

(ア) 非常用放送設備取替

(イ) エレベーター修繕（制御盤他交換）

(ウ) エレベーター修繕（制御盤内ブレーカー交換）

(エ) 訪問介護課及び居宅介護支援課内床タイル張替え

④年度別利用人員及び年度別年間使用料収入状況

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
利 用 人 員	44,372 人	29,926 人	26,119 人
1日平均利用人数	132.1 人	89.3 人	78.0 人
使用料収入	994,890 円	848,540 円	751,490 円

⑤ 年度別用途別利用数

(単位：件)

区 分	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	有料	無料	有料	無料	有料	無料
会 議	67	334	33	279	75	269
集 会	1	0	0	1	0	0
講 習	48	123	10	19	11	22
研 修	12	57	1	12	0	34
例 会	353	242	219	140	137	118
そ の 他	12	476	11	404	16	279
小 計	493	1,232	274	855	239	722
社協・町連 母子寡婦福祉会 更生保護サポートセンター	406	1,340	395	1,331	383	1,191
合 計	3,471		2,855		2,535	

(2) 岩見沢市高齢者福祉センターふれあい（指定管理施設）

①開館日及び利用時間

受 託 日	平成31年4月1日
開 館 日	月曜日～土曜日まで（部会活動は月曜日から金曜日まで）
開 館 日 数	292 日 ※新型コロナウイルスの影響で休館 （令和3年5月16日～6月20日まで） ※暖房給水管修繕工事の為休館 （令和4年1月7日～1月14日まで） ※入浴 （令和2年2月26日から休止中）
利用時間帯	午前9時～午後5時まで

②利用者数

区 分	一 般		部会等		合 計	
利 用 人 数	1,719 人		8,125 人		9,844 人	
男女別利用人数	男性	890 人	男性	4,443 人	男性	5,333 人
	女性	829 人	女性	3,682 人	女性	4,511 人
1 日 平 均	5.8 人		27.8 人		33.7 人	

③趣味と教養部会利用状況

部 会 名	利用回数	利用人数	部会名	利用回数	利用人数
カ ラ オ ケ 部 会	0 回	0 人	民 謡 踊 部 会	36 回	486 人
俳 句 部 会	10 回	67 人	華 道 部 会	9 回	63 人
太 極 拳	16 回	74 人	コ ス モ ス の 会	0 回	0 人
卓 球 部 会	44 回	1,537 人	ふまねっと部会	13 回	85 人
書 道 部 会	38 回	333 人	こぶしクラブ	42 回	409 人
太 鼓 部 会	16 回	115 人	陶 芸 部 会	158 回	1,416 人
木 彫 部 会	8 回	21 人	囲 碁 同 好 会	211 回	1,799 人
剣 詩 舞 吟 遊 会	12 回	62 人	将 棋 愛 好 会	184 回	486 人
ダ ン ス 部 会	27 回	228 人	小 計	889 回	7,964 人
茶 道 部 会	15 回	72 人	パ ソ コ ン 教 室	0 回	0 人
謡 吟 会	8 回	9 人	オモチャの病院	42 回	161 人
いきいきサークル	42 回	702 人			
合 計				931 回	8,125 人

④主な行事

(ア)趣味と教養部会

【中止した行事】

- ・ 展示発表・舞台発表・呈茶席・ふまねっと体験教室

(イ)その他

【開催した行事】

- ・ ふれあいまつり

【中止した行事】

- ・ 土曜初心者陶芸教室
- ・ ビデオ映画上映会
- ・ 健康相談
- ・ ふれあいコンサート・カラオケの集い
- ・ 移動心配ごと相談所
- ・ センター大掃除
- ・ お楽しみ会

(3) 岩見沢市栗沢福祉センター（指定管理施設）

受 託 日	平成 31 年 4 月 1 日
営 業 日	月曜日～金曜日まで（祝日を除く）
開 館 日 数	217 日 ※新型コロナウイルスの影響で休館 （令和 3 年 5 月 17 日～6 月 20 日）
時 間	9 時 00 分～17 時 30 分まで
利 用 人 数	年間 157 人 1 日平均 0.7 人
職 員 配 置	嘱託職員 1 人（支所業務と兼務）
利 用 団 体	・栗沢更生保護女性会・岩見沢市老人クラブ連合会栗沢地区協議会 ・岩見沢市赤十字奉仕団栗沢班・栗沢サロン・親子ひろば・籐和会

(4) 栗沢デイサービスセンター（指定管理施設）

受 託 日	平成 31 年 4 月 1 日			
区 分	指定通所介護・第一号通所介護事業（予防通所介護相当）【通常規模型】			
定 員	月・火・木・金曜日 30 人(1 単位目) 水・土曜日 20 人(2 単位目)			
利用人数		利用人数	月・火・木・金	水・土
	営業日数	286 日	209 日	77 日
	実人数	697 人		
	延人数	4,786 人	4,084 人	702 人
	1 日平均		19.5 人	9.1 人
職員登録人数 (3 月 31 日現在)	管理者（兼務） 1 人 生活相談員 2 人 臨時常勤介護員 2 人 臨時介護員 6 人 臨時看護師 4 人 臨時運転手 3 人			
サービス提供 時間帯配置基準	月・火・木・金 職員配置基準 7 人 水・土曜日 職員配置基準 5 人			
営 業 日	週 6 日⇒月・火・水・木・金・土（祝日を含む） （日曜日及び 12 月 31 日から 1 月 3 日まで休業）			
時 間	8 時 30 分から 17 時 45 分まで 【サービス提供時間帯】9 時 15 分～16 時 30 分の 7.25 時間			
介護内容	日常生活上の援助 （排泄の介助、移動の介助、その他必要な身体介護） 送迎介助、入浴の介助、食事の介助、機能訓練、レクリエーション 介護上の相談・助言、介護方法の指導等			
利 用 料	介護報酬の告示額による ・法定代理受領分(国保連合会) ・法定代理受領分以外(個人負担)			
そ の 他 費 用	食費(1 回につき 550 円)、行事食(1 回につき内容により 600～700 円) お茶・おやつ代(1 回につき 100 円) オムツ代(実費)、その他通常必要なもの			
区 域	岩見沢市全域			

6 福祉サービス事業の推進及び経営の健全化【重点】

当会が実施している居宅介護支援事業、訪問介護事業、通所介護事業は、利用者の減少などにより非常に厳しい経営状況が続いていることから、令和2年度に策定した経営改善計画の最終方針に基づき、職員体制、サービス管理体制、運営形態等の見直しを行い、引き続き経営の健全化に努めた。

長引くコロナ禍における感染予防対策についても、消毒やマスク着用を徹底するとともに、利用者の体調変化に注意し、利用者が安心して生活できるよう配慮しながらサービス提供の維持に努めた。

近年増加している高齢者虐待ケース等の困難な事例については、地域包括支援センターや市役所等の関係機関と連携しながら、積極的な支援を行い、発達に遅れや心配のある乳幼児・児童やその保護者が、日常的に適切な相談指導や療育を受けることができるよう努めた。

(1) 居宅介護支援事業

要介護者の意向に添い自立した在宅生活が続けられるように、居宅サービス計画書（ケアプラン）作成や介護サービスに係る連絡調整等に努めた。

市内複数の居宅介護支援事業所が閉鎖、職員の退職、休業したことに伴う要介護者移行要請があり、その内16人を受け入れして利用者サービスの継続を支援した。

定期的な会議の開催や地域包括支援センターからの処遇困難事例の受入れを行うことで、特定事業所加算Ⅱの月額4,070円／1人の加算を算定できる体制を維持して収益の増加に努めた。

職員の資質向上について、地域包括支援センターが主催する研修や北海道中央労災病院主催の新型コロナウイルスについての研修など、事業所として必要とする研修を職員各自が自主的に受講しスキルアップを図った。

区 分	令和3年度	令和2年度	増 減
要介護利用者数	2,932人	2,896人	36人
予防利用者数	814人	723人	91人
要介護月平均利用者数	244.3人	241.3人	3人
予防月平均利用者数	67.8人	60.3人	7.5人

(2) 訪問介護事業

事業収入の安定とサービス向上には、利用者を増やす取り組みとパートヘルパーの安定した確保が必要であることから、令和3年度ではPRパンフレットを作成して居宅介護支援事業所に配布し新規利用者の情報収集に努めた。

また、パートヘルパーの確保については、ホームページをはじめ、社協だより、ハローワークやエスタニュース、マグネットステッカーを公用車に貼るなど募集に努めたが採用には至らなかった。

収益面では、介護度が高く利用頻度の多い利用者の解約が続き、大きな収入減となった。

①訪問介護事業と介護予防・日常生活支援総合事業

日常生活に支障のある高齢者等に対し、訪問介護計画書に基づき訪問介護員を派遣し、利用者が可能な限り自宅で自立した日常生活を送れるよう、生活全般にわたるサービス提供を行った。また、サービス提供責任者が定期的に利用者宅を訪問して、利用者や家族等から要望を聞き取ってサービス向上に努めた。

要支援者に対しても介護予防・日常生活支援総合事業により切れ目のないサービス提供を行い在宅生活の支援に努めた。

区 分	令和 3 年度	令和 2 年度	増 減
利用者数	1,273 人	1,300 人	△27 人
延利用回数	7,631 回	9,306 回	△1,675 回
月平均利用人数	106.1 人	108.3 人	△2.2 人
月平均利用回数	635.9 回	775.5 回	△139.6 回

②居宅介護事業

日常生活に支援が必要な身体障がい者及び知的障がい者並びに精神障がい者に対し、障がい者総合支援法によるサービス利用計画に基づき居宅介護従事者を派遣し、利用者が可能な限り自宅で日常生活を営むことができるよう支援を行った。

また、関係市町村、地域の保健・医療・福祉サービス等とも綿密に連携を図り、利用者ニーズに沿った細やかな総合的サービス提供を行った。

区 分	令和 3 年度	令和 2 年度	増 減
延利用者数	195 人	267 人	△72 人
延利用回数	1,350 回	1,891 回	△541 回
月平均利用人数	16.3 人	22.3 人	△6.0 人
月平均利用回数	112.5 回	157.6 回	△45.1 回

③相談支援事業

(ア) 障害のある方々が安心・充実した生活ができる事を目的として、障がい者福祉サービス等利用計画書の作成や計画書に基づくサービス提供が適切に行われているかのモニタリングを定期的を実施して、障がい者の自立した社会生活を支えるための支援を行った。

(イ) 発達に遅れや障害のある乳幼児や児童の保護者に対しても、医療機関や学校・保育園、障害児通所事業所などの関係機関と連携して、サービス等利用計画書の作成やモニタリングを行い、安心して日常生活を送るための支援を実施した。

(ウ) 長引く新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、障がい者が居住する施設やグループホームへの訪問が制限されていることから、利用計画、モニタリング共に調査件数は減少した。

区 分		令和 3 年度	令和 2 年度	増 減
障 が い 者	利用計画	81 件	72 件	9 件
	月平均	6.8 件	6.0 件	0.8 件
	モニタリング	237 件	212 件	25 件
	月平均	19.8 件	17.7 件	2.1 件
	認定調査	10 件	9 件	1 件
障 が い 児	利用計画	150 件	172 件	△22 件
	月平均	12.5 件	14.3 件	△1.8 件
	モニタリング	128 件	131 件	△3 件
	月平均	10.7 件	10.9 件	△0.2 件

(3) 通所介護事業

令和 2 年度に美流渡デイサービスセンターを統合し、美流渡・万字方面の利用者を受け入れすると同時に、栗沢地区以外の幌向・志文町・南町方面などからも積極的に利用者を受け入れして利用者の増加に努めた。

しかし、それでも栗沢デイサービスセンターの多額の赤字経営は続いており、人員体制の見直しやスタッフの充実を図り、水曜日営業を再開して営業日数を増やし利用者サービスの向上に努めたが、長引く新型コロナウイルス感染拡大防止対策の継続により、外部講師を招いての介護講座や地域住民が参加する行事などは殆ど実施できなかった。

①利用者を増やすための取り組み

減少傾向だった利用者数が 6 月頃から増加に転じたことから、介護スタッフを 2 名採用・増員して休業していた水曜日の営業を再開して利用者の利便性を確保してサービス向上に努めた。

②プログラムの多様化

新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、外部講師やボランティアの協力が大幅に制限されたことから、お花見や紅葉見学、猛暑期間のかき氷やスイカ割りゲーム大会、秋祭りゲーム大会などの行事を職員のみで実施したが、評判は上々で心のこもったデイサービスセンターの運営を行う事が出来た。

③地域福祉の拠点に向けて

地域福祉の拠点として地域の方々に来ていただくような事業については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今年度も実施できなかった。

④広報活動

毎月発行しているデイサービス通信に加え、PR 用チラシを新たに作成して、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所を訪問して PR 活動を毎月継続して行った。

岩見沢市町会連合会栗沢地区連絡協議会の役員会（令和 3 年 7 月 29 日開催）において、栗沢デイサービスセンターの利用状況説明と PR を行ったが、その後に予定し

ていた民生委員の会合等はコロナ禍により資料配布のみとなり積極的なPR活動はできなかった。

⑤働きやすい職場づくり

水曜日の営業再開により介護職員を2名増やしたことで、計画的な有給休暇の消化をスムーズに行う事が出来た。また、定期的なミーティングでの意見交換により、業務に必要な情報の共有と職員間の信頼関係を構築する事ができた。

区 分		令和3年度	令和2年度	増 減
登 録 者 数		65 人	64 人	1 人
実利用者数		54 人	58 人	△4 人
延べ利用者数	要支援1	429 人	319 人	110 人
	要支援2	1,375 人	1,136 人	239 人
	要介護1	1,650 人	1,851 人	△201 人
	要介護2	839 人	997 人	△158 人
	要介護3	287 人	274 人	13 人
	要介護4	156 人	104 人	52 人
	要介護5	50 人	48 人	2 人
	合 計	4,786 人	4,729 人	57 人

(4) 障がい児通所支援事業

①通所支援事業（児童発達支援事業・放課後等デイサービス）

発達に遅れや障がいのある乳幼児・児童に対し、定期的な通園を通して、基本動作の習得や日常生活に必要とされる能力の発達を促すことを目的に、療育支援提供の充実に努めた。「ことばが遅い」「落ち着きがない」など保護者によってニーズは異なるが、子どもの発達状況を一緒に確認しながら、保護者の気持ちに寄り添うことに努めた。

利用延人数については、出生数の減少による少子化や事業所の増加により年々減少の傾向にあるが、今年度は昨年度に増して新型コロナウイルスが影響し、児童発達支援の通園の利用が大きく減少した。（令和4年1月～2月は子どもへの新型コロナウイルス感染症が拡大し、市内の保育園や幼稚園が相次いで休園や学級閉鎖となり、つみき園の利用が大きな影響を受けた。）

区 分	令和3年度	令和2年度	増減
登録児数	119 人	135 人	△16 人
児童発達支援事業 (1日平均)	2,657 人 (11.8 人)	3,193 人 (13.8 人)	△536 人 (△2.0 人)
放課後等デイサービス (1日平均)	282 人 (1.2 人)	298 人 (1.3 人)	△16 人 (△0.1 人)
合計利用者数延 (1日平均)	2,939 人 (13.0 人)	3,491 人 (15.1 人)	△552 人 (△2.1 人)

②子ども発達支援センター事業（三笠市、月形町委託事業）

発達に遅れや心配のある乳幼児・児童とその保護者が、日常的に適切な相談指導や療育を受ける事が出来るよう、関係機関への情報提供を行い、地域の発達支援体制の充実に努めた。今年度は、延 19 件の相談があり、2 件がつみき園を利用することとなった。またケース検討会やケース会議には参加したが、例年実施している療育講演会については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となった。

□関係機関連携数

令和 3 年度	令和 2 年度	増減
7 機関	7 機関	0 機関

□発達支援に関する相談件数（延べ件数）

区 分	市町名	令和 3 年度	令和 2 年度	増減
来所相談	三笠市	3 人	0 人	3 人
	月形町	4 人	1 人	3 人
電話相談	三笠市	6 人	0 人	6 人
	月形町	6 人	25 人	△19 人
合 計		19 人	26 人	△7 人

7 法人運営

経営の健全化を目指すため、法人経営検討委員会を開催した。

開催年月日		議題
令和 3 年 10 月 8 日	第 1 回開催	・委員長及び副委員長の選出について ・事業区分変更に伴う経営改善計画書の一部変更について ・経営改善計画の進捗状況について
令和 4 年 2 月 16 日	第 2 回開催予定 【中止】	・決算見込について報告予定が、まん延防止等重点措置のため開催中止。

8 事務局の運営

当会が事務局を担う岩見沢市共同募金委員会及び岩見沢市連合遺族会並びに岩見沢市老人クラブ連合会について、各会の目的に沿った事業の運営に努めた。

9 後援・共催・協賛

事業の後援・共催・協賛により、社会福祉協議会の趣旨普及に努めた。

(1) 後援

開 催 日	行 事 名 等
令和3年7月31日	第66回北海道手をつなぐ育成会全道大会岩見沢大会
令和3年10月9日	いきいき健康フェア
令和3年12月4日	2021男女共同参画市民フォーラム in いわみざわ

(2) 共催

なし

(3) 協賛

なし